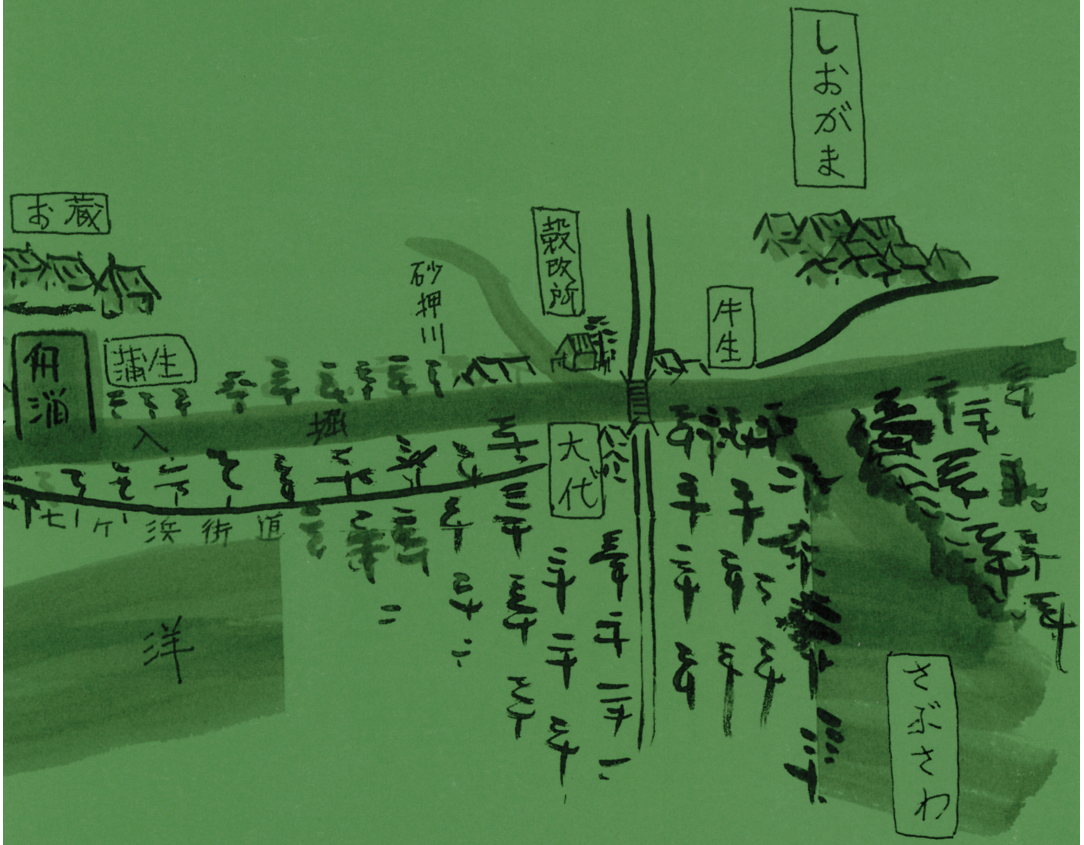
仙台藩をささえた米の道

蒲生から原町

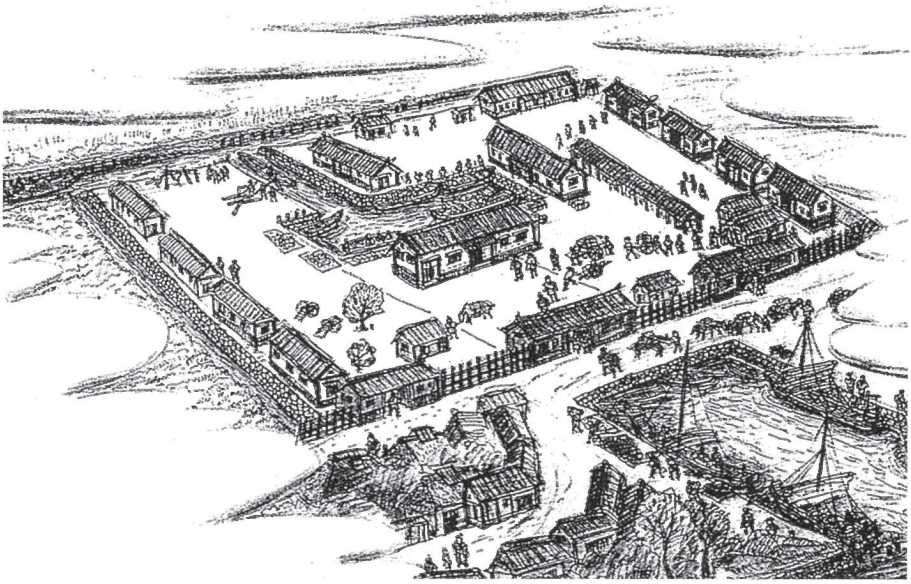


舟入堀（貞山運河）

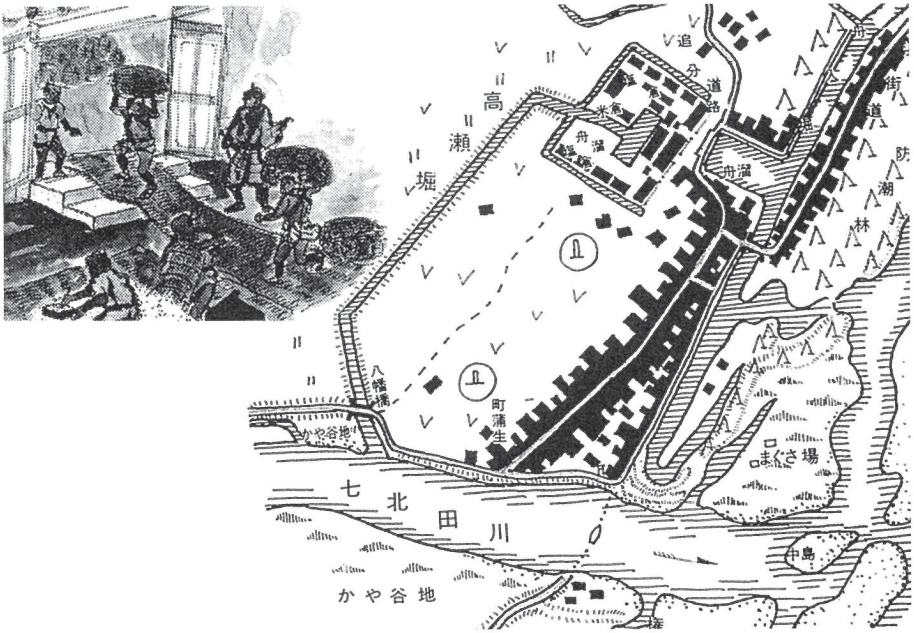
現在舟溜跡は、宮城県企業局が管理しているが、昭和40年代の仙台港建設の時に当時のまま埋められた。掘り起こせばその姿を見ることができる。枡形になっていて、舟を着けて荷揚げしたところ。野蒜岩を使って高さ6尺（1.8m）の石垣を巡らしている。荷揚げするところは段々になっていた。揚げられた物は米・塩・石材など。私が小さい頃は、蔵が3～4つ残っていた。

新産都市で農地が買収され、現金が入ったので、家を建て替えてしまったので、昔の面影はない。

貞山運河は、明治になって蒲生から閖上までの堀ができて貞山堀というようになった。　（吉田俊一さん・奥さんの話）



蒲生の舟溜とお蔵



江戸時代の町蒲生

高瀬堀だったところに40年前に家を建てた。当時は深くて沼のようになっていて鯉やウナギなどを飼っていた。

七北田川は湊浜（七ヶ浜）に流れていたので、町蒲生と鍋沼は陸続きだった。蒲生の住民の8割は鍋沼の出身。

高瀬掘のあと　中野小学校東側

付け替え工事の排水をどうしたかよく分からない不思議だ。この辺は2ｍも掘ると水が出てくるので大変だったと思うが方法が分からない、どんな本にも書いていない。　（鈴木清七郎さんの話）

橋ではどう綱をくぐしたか

堀の両側には橋がなければならなかったはずだが、橋の所はどうやって綱を通したのか未だにそれが分からない。橋は土橋であった。幅は場所にもよるが、調べてみると今の6m道路くらい。ここから苦竹までどのくらいかかったかは分からない。帰りはおそらく空っぽで帰ってきたのではないか。荷を積んで引いている絵はあるが帰りの絵とか話はない。難儀したものは残るが楽したものはなかなか残らないもの。帰りも引っ張ったか、あるいは竿を差して乗ってきたか。

（菊地周治さんの話）

昭和10年代の舟曳堀

田圃として残っていた。深さは4尺ぐらいだったそうだ。馬のタガラに土を積んで埋めて田圃にした。苦竹の方は蒲田（アシ・ヨシ）を

舟曳堀跡　現在の食肉市場の付近か